

《第86回》令和二年八月の作品

〈八月十四日（金）於・西早稲田パークタワー2階集会室〉

朝顔やひとり暮しの米をとぐ
（芙紗）

初釣や沙魚の重さにしなる竿
（貴美）

苔の花鳥居峠に碑の数多
（清助）

向日葵にもそつぽ向かれし迷路奥
（正雄）

初蟬や道行く皆と樹々見上ぐ
（奉男）

藤井聡太七段初戴冠

うすもの

羅をはおり棋聖の十七才
（孝昭）

秋立つや母の手縫ひの作務衣着て
（一江）

梅雨明けやコロナはいまだ明けやらず
（平六）

絡み合ひ意地張るやうな夏野菜
（前歩）

長崎の鐘に祈りの夏めぐる
（正佳）

新涼や溪流沿ひのレストラン
（隆治）